

全国保健師長会千葉県支部だより

令和6年度 号外 令和6年11月30日発行

1 千葉県支部長あいさつ

冬本番の季節ではありますが、まだまだ暖かく過ごしやすい日々が続いております。時代の大きな流れの転換期に差しあたり、新興感染症や甚大な自然災害を踏まえた保健活動、新たな各種保健医療福祉計画に基づいた施策の展開等ますます保健師への期待が高まっているところです。一方、保健師活動をどう伝承し進めていくか、人材育成に試行錯誤しつつも共に学び合うといことが醸成されてきているのではないのでしょうか。

支部だより号外では、埼玉県支部の企画による南関東・東京ブロック研修会、全国保健師長会研修会、代議員総会等の状況をお届けしていきたいと思っております。 全国保健師長会千葉県支部長 田中由佳(習志野健康福祉センター)

2 令和6年度 南関東・東京ブロック研修会概要

- (1) 開催日時：令和6年10月5日(土) 午後1時30分～4時20分
- (2) 会場：埼玉県県民健康センター(埼玉県さいたま市) 集合形式：参加者103名
- (3) 内容 ① 講演「住民を元気にするプロデュース～注文をまちがえる料理店やdelete Cの取組から～」
NHKの「クローズアップ現代」「プロフェッショナル仕事の流儀」などの制作を担当していた小国士郎氏は、「間違えてもまあいいか」をコンセプトに認知症の方が注文の受付、配膳を行うレストランを期間限定で開店したり、「みんなの力でがん(Cancer)を治すプロジェクト」を立ち上げ、Cの文字を消した商品を買うと売り上げの一部ががんの治療研究費となる仕組みを作るなど、住民一人ひとりが主体的に活動する仕掛けづくりについてお話いただきました。「熱狂する素人が革命を起こす」「中途半端なプロはイノベーションを起こせない」との言葉が印象的でした。
- ② グループワーク 普段話す機会のない他県の方々と交流し、現任教育に苦戦している現状等を共有できました。
- ③ 全国保健師長会活動内容及び研究報告 全国保健師長会 副会長 河西あかね氏から、活動の一つとして、国家要望のとりまとめと提出について説明があった他、保健師のコアバリューとコンピテンシーに係る研究の中間報告として、「統括保健師の育成配置は喫緊の課題である」との報告がありました。(報告者 児玉 一世)

3 令和6年度 全国保健師長会研修会概要

- (1) 開催日時：令和6年11月8日(金) 午前10時～午後4時30分
- (2) 会場：福井県織協ビル(福井県福井市)
- (3) 研修テーマ：「地域包括ケア～誰ひとり取り残さない保健活動を目指して～」

(報告者 佐藤 千織)



【講演 I 「地域における保健活動の推進に向けて」】

講師：厚生労働省健康局健康課保健指導室長 後藤 友美 氏

能登半島地震を踏まえた災害時の保健活動と統括保健師の配置や保健師の人材確保と人材育成の講演があった。災害時保健活動では、支援チームは災害経験を重ねてスキルアップしており局地的な災害にはどっと支援が入ることが今後も一層進んでいくことになるため、支援チームを円滑に受け入れるためのマネジメント機能が重要であると強調され、マネジメント機能となる調整本部の機能がしっかりと要綱上に位置づけられているか改めて確認をお願いしたいとのことであった。また、能登半島地震を振り返って全国保健師長会でまとめた7つの課題について真摯に受け止め準備を進めていかなければならないと述べられ、応援派遣は県と市町村の混合チームが機能したので派遣スキーム等平時から準備を進めてほしいこと。対口支援チームと保健師チームの派遣先が異なることについて総務省と厚労省で課題認識し総務省が対口支援の要綱改正をしたこと。被災地支援のあり方と保健福祉ニーズへの対応として、1.5次・2次避難所という新たなスキームについて、災害時保健活動マニュアルの避難所別の活動を整理していくとのことであった。また、能登地震は高齢者50%であり福祉ニーズが非常に高い状況でDWATが本格稼働したが、福祉サービスと保健師との重なりやどう連携するか今後の課題としてあげられた。

【講演Ⅱ「地域共生社会と地域包括ケアシステム」～地域から始める共生社会づくり～】

講師：東京都健康長寿医療センター研究所 副所長
東京都介護予防・フレイル予防推進支援 センター長 藤田 佳典 氏

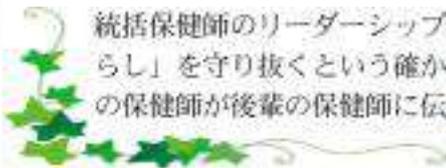
地域共生社会づくりは「つながりづくり」であり、高齢者だけでなく、子育て世代や障害者など、さまざまな世代や分野の人々が協力することが重要で多世代型での仕掛けづくりをして、高齢者部門だけでなく行政の縦割りを超えた連携が必要であること、そこにはできるだけリアルな「場」が重要であること、そのプラス面についてデータや実例を示しながら、渋沢栄一の座右の銘「売り手よし、買い手よし、世間よし」を引用し、全ての関係者が利益を得る「三方よし」の考え方を活用して仕掛けていくとスムーズに進むと事例等をあげた具体的な話があった。



【講演Ⅲ「分野横断的地域包括ケアシステムの構築における統括保健師の役割」】

講師：武蔵野大学 看護学部 学部長・教授 中板 育美 氏

公衆衛生的教えや講師の専門である母子保健事業等を例にあげて、統括保健師が組織横断的に総合調整する役割を担うことで、保健活動が一貫性を持ち、効果的に進行することが期待されること、統括保健師は、現在バイアスや現状維持バイアスから脱却し、横のつながりを広い視野で誘導し保健活動の深化に導く役割があること、統括保健師のリーダーシップについて述べられたほか、最後に、保健師には「その人にとっての安全と豊かな暮らし」を守り抜くという確かな願いがあり、この願いに突き動かされてきた保健活動を統括保健師やリーダー級の保健師が後輩の保健師に伝えて欲しいと強調された。



【実践報告1】「精神障がい者を地域全体で支える仕組みづくり～

『にも包括』支援事業の取組み～

報告者：岐阜県健康福祉部保健医療課 主任技師 田近 俊哉 氏

岐阜県では、「にも包括」の取り組みを保健所が孤立しないように試行錯誤しながら、すべての市町村に保健医療福祉関係者による協議の場を設置することを目標に掲げ、既存の会議体を活用して市町村と一緒に体制づくりをされてきた経緯と、各市町村での取り組みが統一され効果的な情報共有と連携が実現するとともに、保健師の役割と活動が福祉と統合され、住民のメンタルヘルス支援が強化することができた実践報告でした。

【実践報告2】「母子保健の更なる充実に向けた取組～児童福祉との協働～」

報告者：三重県桑名市役所子ども未来部子ども総合センター母子保健係 センター長補佐兼係長 石田 紀子 氏

桑名市は令和3年度から「こども家庭センター」の体制をとり、統括支援員は社会福祉士であるが母子保健係長が補佐する体制で、母子保健と児童福祉が一緒になり連携して支援に取り組んでいる様子を、所内で自然と輪(話し合い)ができていく様子の職場写真や具体的な事例(妊娠SOS経由の妊娠30週)をとおして保健と福祉が最初から濃淡をつけながら連携して関わっている報告があり、「こども家庭センター」の目指すべき姿として参考になる内容であった。

【実践報告3】「選べる脳プロジェクト」～毎日ひと歩きの推進～

報告者：福井県池田町役場保健福祉課 課長代理 富田 路子 氏

池田町は、人口減少と高齢化(高齢化率46.8%)が進む中で、認知症予防と町民全体の健康促進を目指して健康アプリを導入し、平成28年度から「脳べるプロジェクト」として小規模自治体の強みを活かして一体化事業として部署横断的な取り組みを行っている。参加する住民側が自分の行動によって変化した成果が見えてそれが口コミとなって広がり功を奏したヘルスプロモーション活動の実践報告であった。

4 第46回全国保健師長会代議員総会概要

(1) 開催日時：令和6年11月9日(土) 午前9時30分～午後3時45分

(2) 会場：福井県協ビル(福井県福井市)

福井県知事代理の副知事をはじめ、多くの来賓挨拶では能登半島地震等災害時保健活動等への対応に関する感謝と今後の活動への期待の言葉をいただきました。

総会の議題(第1号議案から7号議案まで)

いずれも反対0、8号議案反対1、賛成228(提出数230、無効1、有効票229)で可決されました。

(報告者 児玉 一世)



【基調講演「次期統括保健師の育成～管理期に向けた中堅期保健師の人材育成」】

講師：国立保健医療科学院 生涯健康研究部 主任研究官 茂木 りほ 氏

令和5年度地域保健総合推進事業「中堅期保健師におけるプリセプターの支援や管理期に向けた人材育成体制の検討」をもとにお話がありました。

- ① 中堅期保健師には、業務や保健活動を「広く見る」視点を養わせること。そのための働きかけを意識的・戦略的に行うこと。
- ② ②Off-JT、OJT(特に保健師業務+統括保健師業務を伝承することはとても有効)、ジョブローテーション(計画的な異動、特に本庁経験は必須)を組み合わせる。
- ③ ③全員で管理職(統括保健師)を目指す組織風土の醸成が必要。「人材育成の肝は組織風土」との言葉が印象的でした。

【実践報告①「管理期に向けた中堅期の人材育成～中堅期保健師の自己効力感を高める働きかけ～」】

講師：大分県福祉保健部 健康政策・感染症対策課 地域保健推進監(統括保健師) 池田 裕美 氏

平成23年3月に策定された大分県保健師人材育成指針を保健所や部署単位で集合し、「目指す姿」等について語る機会を設け、キーワードを抽出し行動計画に反映させました。語り合いを通してモチベーションも上がったとのことでした。また、中堅保健師のジョブローテーションではキャリアラダーのA-4までに全ての業務を経験できるようにしています。その他、大分県内の市町村、県に勤務するキャリアラダーA-3、A-4にあたる保健師を対象に中堅保健師研修会を毎年実施し、中堅保健師の資質向上を図っているほか、令和6年度新規事業として、採用10年以上の主任級以上の保健師を対象に海外視察研修に派遣するとの報告がありました。

【実践報告②「大阪府における管理期に向けた中堅保健師の人材育成～管理期のコンピテンシー」】

講師：大阪府健康医療部 健康医療総務課 保健所・事業推進グループ 課長補佐 田中 佐代子 氏

大阪府では令和4年度から「ワーキンググループを立ち上げ、「管理期保健師活動の9事例」からコンピテンシーモデル(具体的な資質・行動)をまとめ、令和5年度に「大阪府保健師のキャリアラダー」一覧に具体的な行動例として追記しました。このコンピテンシーモデルをもとに、自らのコンピテンシーとのギャップや偏りに気づき、自己の課題を明確化できることから、今後のプレ管理期保健師の人材育成に活用する予定とのことでした。



令和6年度全国保健師長会千葉県支部研修会のお知らせ

🍁 テーマ 「保健師も伝え方が9割」

🍁 日時 令和7年2月1日(土)
午後2時～3時半

🍁 会場 千葉市生涯学習センター
3階研修室3 または オンライン

導入社数400社以上!

「伝え方が9割」が



研修 になりました!!



この研修で実践した内容を、研修後に、オンラインで振り返り!

